

「ヒノキ構造材」の実大公開実験のご案内

この度、11月1日(日)に行います「ヒノキ構造材」の実大公開実験をご案内致します。

主催：岡山西木構造勉強会実行委員会 河本(建築設計ぼあら 086-236-8860)

共催：岡山県建築士会(洗井会長)

この公開実験ではヒノキの樹齢60年程度の末口24cm、元口30cm、長さ4.1m材を2本繋ぎ合わせてスパン4間(7.28m)の床梁を構築して幅1.82m×梁間7.28mの床組みを作りその上に100人換算程度の土嚢袋を乗せて、たわみ量を詳細に計測致します。

通常の木造住宅では、梁間スパンが2間(3.64m)を超えた場合には国産材ではない「禁じ手スパン」とも言えます。

そこで、当方ではそう言った「木造住宅の常識」における「スパン制限」とも言える4mのヒノキ丸太材を2本「中央部で継手」を作り、荷重を掛けてたわみ量を計測します。

片一方ではスパン4間(7.28m)の一般常識で有る「集成材」の1尺1寸の梁せいで、一般的なプレカットでの仕口で加工した試験体を作り、上記と同様の荷重を掛けて「たわみ量」を計測致します。

岡山県内いや、日本中の大工職人や木造住宅を手掛けている工務店関係者及び、建築設計者のほとんどの方々が「そんなヒノキの末口からして6寸程度の梁せいしか取れない材で、しかも中央部で継手を作る事は絶対不可能」と言う方々に実際に見学に来て頂き、ヒノキ構造材の接合部を考慮した構造技術で可能となる事を理解して頂く為の「公開実験」を行うものです。

期日：11月1日(日)公開実験 10月31日(土)試験体制作

時間：公開実験は、午前9時30分から午後3時まで(少雨決行)

試験体制作は、午前9時から午後5時まで(少雨決行)

場所：株式会社 あらい建設の駐車場(ファミリーマート岡山江並店西側)

駐車場は20台分程度しか有りませんので、可能な限り乗り合わせて来て頂くか公共バスでお願い致します。

全国からマスコミ等の取材も有り、建築関係の雑誌(日経アーキテクチャー、日経ホームビルダー等)や、日刊木材新聞や月刊「現代林業」、(株)林経新聞社、全国林業改良普及協会、日本林業経営者協会、大日本山林会、月刊「林業技術」、月刊「現代林業」等の雑誌に対して取材をしてもらう予定です。

日本木材学会中国・四国支部の会員関係者の方々も可能ならば見学に来て頂ければと思います。

見学ご希望の方は主催の建築設計ぼあら: voila-k@book-archi.com 又は下記の当方のメールアドレスまでご連絡ください。参加申込は9月末まで、もしくは先着80名で締め切ります。

以上、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

木構造建築研究所 田原

代表：田原 賢

〒639-2306 奈良県御所市三室 104-1-901

Mail : taharakn@m4.kcn.ne.jp

TEL/FAX : 0745-62-6669

HomePage : <http://www4.kcn.ne.jp/~taharakn>